



加藤 かな文氏プロフィール

1961 年愛知県生まれ。岡井省二・児玉輝代に師事。1993 年、「槐」入会。1997 年、第 6 回槐賞受賞。2001 年、「槐」を退会、児玉輝代らと「家」を創刊し、編集発行人。2011 年 10 月、児玉輝代の死去にともない俳誌「家」代表を引き継ぐ。

『家』（自選15句）

加藤かな文

春の山好きなどころに並べ置く
薄氷のつめたき水に囲まるる
卒業の涙を笑ひ合ひにけり
こぼすもの多くて鳥の巢は光
菜の花の前を次々明るい水
忘れてもいいことばかり春の禽
夏祭つまらぬものを買ひにけり
巻きついて昼顔の咲く別の草
夕暮のさういふ色の石榴なり
とまりたきもの見つからぬ赤とんぼ
木枯や吾より出づる父の声
朝日から鳥の出てくる寒さかな
いつしんに降る雪のなか遊ぶ雪
雪のあとひたすら乾く桜の木
大寒や兎は菜屑こぼしつづけ